

平成 28 年度
視察等の届出・報告書
(届出番号 1 ～ 3)

平成 28 年度 視察等の届出・報告書 (1～3)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
1	4/18～20	古南源二	池田文治・岩本壯八・ 氏平篤正・中尾哲雄・ 原秀樹・福井莊助・ 福島一則	岩手県陸前高田市(木材を骨組み利用した ビニールハウス)・青森県五戸町(廃校舎 を利用した植物工場)・六ヶ所村(原子力 の基礎知識取得)・田舎館村(弥生時代北 限の水田発見と田んぼアート)



副議長



局長



GL



係



國 覧



様式第1号

平成28年 3月29日

真庭市議会
議長 竹原茂三 殿



真庭市議会議員 古南源二



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

岩手県陸前高田市米崎町字川崎238-4
岩手県農業研究センター南部園芸研究室
青森県五戸町大字十海塚35 (旧五戸町立南小学校)
有限会社屋安部製作所 第2植物工場

3 内 容

木材を骨組み利用したビニールハウス
廃校舎を利用した植物工場

4 行 程

別紙のとおり 4/18~20

5 事務局から訪問先への依頼

必要 ・ 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。同行参加者：池田文治、岩本壮八、氏平篤正、中尾哲雄、原秀樹、福井荘助、福島一則以上

青森・岩手視察研修プラン

4月18日 4:15集合出発

7:00必着

100分

伊丹空港 JAL7:20発

花巻空港 8:45着 レンタカー移動 陸前高田市 10:30着

本庁舎発

10:30～ 昼食～14:30必出発 90分 16:30必着 4,860円 当日現金で購入 18:13着 宿泊

新花巻駅 16:42発 新幹線やまびこ53号乗換 八戸駅

4月19日

レンタカー 40分

五戸町視察 10:00～12:00

六ヶ所村 1時間40分

宿泊

ホテル発

9:00

移動

田舎館村

移動

76km

原子力PR館

青森市

移動

視察が延びる可能性もある

15:30～16:30

4月20日

徒歩で朝食

40分

遊稲館他

青森空港

14:50発

伊丹空港

16:25着

真庭帰着 19:00

考古学の武田さん説明員300円

木造ビニルハウス視察 岩手県農業研究センター南部園芸研究室

〒029-2206 岩手県陸前高田市米崎町字川崎238-4

TEL 0192-55-3733 FAX 0192-55-2093

◎JR大船渡線BRT「高田病院駅」下車、10分

廃校利用野菜工場視察

青森県五戸町役場

TEL 0178-62-2111 FAX0178-62-6317

阿部製作所第一工場

TEL 0178-62-31.5 FAX 0178-62-3638

野菜工場は白衣が必要であり、一人1500円要ります。

19日の訪問先は、五戸町大字浅水字十海塚35 (旧五戸町立南小学校)

緊急時等の連絡先は、五戸町企画振興課コワタリさん (女性)

18日宿泊地 八戸市

コンフォートホテル八戸青森県八戸市尻内町2-16電話0178-70-4811(朝食付き)

19日宿泊地 青森市

リッチモンドホテル青森 青森市長嶋1-6-6 電話017-732-7655



様式第2号

報 告 書

平成28年5月2日

報告者 真庭市議会議員 氏名 古南源二 

下記のとおり政務活動費を使用して調査研究・研修会・要請陳情活動を
しましたので、その結果を代表して報告いたします。

1	日 時	自 平成28年 4月 18日 (午前・午後) 4時 20分 至 平成28年 4月 20日 (午前・午後) 7時 10分
2	場 所	岩手県陸前高田市米崎町字川崎238-4 岩手県農業研究センター南部園芸研究室 ----- 青森県五戸町大字十海塚35 (旧五戸町立南小学校) 有限会社屋安部製作所 第2植物工場 ----- 青森県六ヶ所村原子力PR館 ----- 青森県田舎館村埋蔵文化財センター
3	用 件	木材を骨組みにしたビニールハウス ----- 廃校舎を利用した植物工場 ----- 原子力の基礎知識取得 ----- 弥生時代北限の水田発見と田んぼアートについて
4	概 要	

陸前高田岩手県農業研究センター南部園芸研究室では、食料生産地域再生の
為の先端技術展開事業として「先進的な農業技術の駆使して大規模農業の実証



研究」「全国のモデルとなる取組を進め、東北を新たな食料供給基地として再生」を掲げている。

1、抽象区画土地利用型営農技術の実証研究

中山間地の於いて土地利用型作物のコスト生産と地域の気象条件を生かした加工品の開発により収益の増加を図る。

2、ブランド化を促進する果実の生産加工技術の実証研究

林檎の早期多収、ユズ加工品開発、加工ブドウの低コスト栽培により特産果実のブランド化を図る。

3、ブランド化を促進する野菜の生産・加工技術の実証研究

地域の多様な働き手と資源を生かして野菜の加工開発に合わせてブランド化を進め、付加価値の高い農業を実現させる。

4、中山間地域における施設園芸技術の実証研究

施設園芸におけるイニシャルコスト、ランニングコストを低減した雇用型経営を構築するとともに地域の将来を担う経営体の育成・定着を図る。

上記の [4] に注目して視察をおこなった。

写真1のようにこの地域ではビニールハウスの屋根部分にはパイプを2重構造で配置し降雪(25センチ)や強風に対応している。「写真1」

地域資源を生かして農業を考えるという点で、地域の杉材を使って施設園芸をはじめている。

主体は 40a×4 棟でイチゴとトマトを計画している。地域のブランド化を進めるに当たり、見学したハウスでは年間を通して収穫のあるイチゴとトマトの試験栽培を視察した。「写真2」

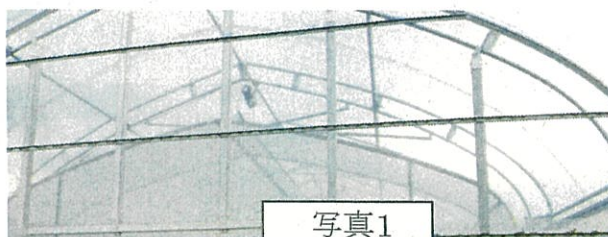


写真1



写真2

注目すべき点は、イチゴ施設栽培の
培圃場に杉の樹皮を特殊加工したバ
ーク材を使用していた点である。「写真
3」圃場に肥料溶液を流し込むにあた
ってバーク材は保湿性、保温性が良く
イチゴの生育に欠かせない素材と言
うことでした。バークの乾燥は、回復に時
間がかかり、とても乾燥させないこと
が重要な作業でもある。イチゴでは1
kg2000～2500円として年間8トン
を見込み2棟で400～500万円を目標
にしている。

トマトの栽培もしており、9段から10
段までの生育試験を行っているとい
う。

地域の間伐材を使ったビニールハ
ウスは誰でも(地域の大工さん)でき
るような簡単な構造でした。基礎部分
にはL型コンクリートの2次製品(写真
4)を使用している棟や、太陽光発電
に使う基礎杭(写真5)を利用した棟
もありました。約1週間で1000㎡が
建築出来る。

木造のビニールハウスは、屋根の平均荷重 50kg/㎡。最大荷重 120kg/㎡で風速
50m/秒。パイプハウスの償却は8年であるのに対し、木造ハウスは20年と長い。岩
手県では国の補助金50%を利用している。万が一の災害でも災害共済制度も利用
できる。



写真3



写真4



写真5

ビニールは2重張り構造で温度管理などの施設は200万円までで出来ます。柱ピッチ1800mmの棟は坪当たり8~9万円。柱ピッチ2400mmの棟は1坪あたり6万円程度になる。

ハウス内には、木質ボイラー(ゴロン太「写真6」)が設置してあった。石油ボ



写真6

イラーのように温度の微調整は出来ませんが、(写真7)のような丸太が0.5m³入り12時間燃焼する。写真は送風のみボイラーですが100万円で温湯が循環できるボイラーが購入できる。



写真7

考察

県や市町村の補助率をどのように設定するかによって、地域の施設園芸や施設農業は大きく進化すると考えます。

以前真庭市でも木質燃料(ペレット)を利用するために、最初は木質ボイラーの試作機を作ることからはじまり、試験していただいた農家にはそのボイラーの残存価格を低く見積もり譲渡したように、この木造ハウスも実証試験をして、譲渡する方法も考えられます。

廃校を利用した野菜栽培工場

青森県五戸町では、統合によって廃校になった小学校の教室を利用して人口光(全光LED)による水耕栽培で、三つ葉、ベビーリーフ、シソ、レタスなどを栽培して市場へはなく店に出荷してい



写真8

る。

1. 事業概要は、旧五戸町南小学校を利用している。建築年は平成 11 年 12 月。構造は鉄筋コンクリート造 2 階建て、延べ床面積は管理・教室棟を含め 2566 m²。(写真 8)

2. 利活用までの経過

平成26年5月地区から利用の意向が無い旨の届け出

平成27年1月利活用事業者の募集開始

※ 地域の振興発展に資する事業(地域産業創出・地域雇用創出・福祉向上等)

※ 建物土地共に無償

※ 現状有姿貸付、改修費・維持管理費・修繕費は利用者負担

平成27年4月選定委員会の開催【利活用事業者2社内定】

内定者との事前協議(電気・水道・汚水処理等。⇒小さい浄化槽に入れ替えた。水道料金・電気も協議)

平成27年6月内定者1社より辞退届提出(パン工場の汚水処理等改修費の理由による。)

平成27年 6 月国庫補助金財産処分の報告(学校閉鎖や新規事業の説明で無返済で解決)

平成27年7月(有)阿部製作所と事前協議(建築基準法、消防法関係)

平成27年8月(有)阿部製作所と使用貸借契約締結【利活用事業者決定】

3. 行政支援

(1)使用貸借契約前

建物・土地共に無償貸与、学校物品の無償貸与、各所相談・立会

(2)使用貸借契約

モノづくり事業補助金(商品開発及び販路拡大、地域経済の活性化及び雇用の機会の創出)

4. 雇用効果

申込書類の事業計画書に地元新規雇用予定者数の記載欄を設け、審査項目とする

5. その他

(1)「五戸町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に具体的な施策として明記し、利活用事業を展開している。

→基本目標1(しごと:産業・雇用対策)対策)

施策6に「廃校校舎の民間利活用促進事業」

・廃校校舎の利活用について、民間の活力を促進し、雇用機会の創出につなげる。としている。

(2)体育館については、「避難所として使用できる用途であること」と言う条件を提示し募集したが、応募者なし。(有)阿部製作所に対し、校舎内に、非常時における避難スペースを十分に確保できる場合、体育館への工作物の常設を認める事とし、体



写真9

育館の利活用を提案している。((有)阿部製作所も利用していく計画中と聞く)

利用事業者は、電気部品の製造工場を経営していたが、生産拠点が海外に移るに伴い受注額が減少の一途をたどっていたことがあり、県の産業技術センターや資材メーカーで栽培の研修をした。

第一工場は栽培面積300㎡。5段の多段式水耕棚を使いレタスなど5種類の野菜を栽培し、1日460株、年間168000株を出荷している。数量的に採算ベースに乗らなかったために廃校を利用することになった。廃校は第2工場として利用しており、ベビーリーフなどを1日650株、年間240,000株出荷している。(写真9)は第2工場で1月29日に播種したエゴマである。



写真10

販売先は、紅屋商事(株)、(株)イトーヨーカ堂、(株)中合、(株)よこまち、(株)マエダ、イ

オンリテール(株)、青森県倒産品センター、パンメルシ、ビストロヒロと苦労もあったが、販路は拡大していった。

商品は、無菌室に近い状態で生産されており、購入者が洗うことなく食する事が出来るために少し高めの料金設定をしているが、全量買い取りで返品はない。また、雑菌が付着していないために2週間程度は日持ちする。出荷時にも形の悪いものはカット商品にて販売しているためロスも出ない。(写真10)は出荷される状態の包装姿。

今後、外食産業にも販路を広げる計画があり、体育館を利用すれば現在の3倍の出荷が見込める。

商品原価は一袋約80円、卸値は135円程。店頭販売価格は180円にもなる。電気代は約1/3、人件費は1/2ほどである。初期投資は第2工場の場合350㎡で4,000万円。補助金は0円。

施設の耐用年数は15年。2つの工場で作業員は15名。液肥の状態はコンピューター管理されており、画一化された作業で、障害者でも作業ができる。

考察

我が市に於いてもこれから廃校校舎は出てくる。野菜に限らずキノコでも可能性がある。廃校校舎の利活用の推進、地域の雇用創出に可能性はあると考える。一番の課題は、販路である。行政の後押しも欠かせない要素であることは言うまでもないが、食生活の変化や食文化の変化にも注目する必要がある。

原子力PR館では、原子力の基礎知識を学んだ。ウラン原石から輸入、生成、利用、廃棄物の再処理等原子炉内の様子屋再処理の行程などを1時間かけて学んだ。雑木しか生えていない小高い山や丘一帯は次世代エネルギーパークとされており、240haの燃料備

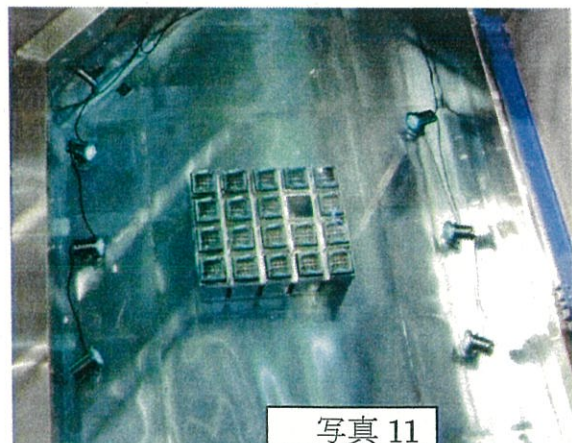


写真11

蓄基地には直径 81.5m高さ 24mの巨大な石油タンクが 51 基立っており、周辺の小高い山には 3 社の風力発電が 92 基もそびえていた。五戸町役場の人の話だと六ヶ所村民の所得は青森県一ということだった。(写真 11) は P R 館にある使用済み燃料集合体を水に沈めてある模型。

田舎館村埋蔵文化財センター(写真 12 の←)では、1981 年に東北地方で弥生時代(約 2100 年前)の水田跡が発見された。北緯 40 度を越えた稲作がおこなわれていたことは歴史の教科書を塗り替える大発見だった。国道バイパス工事に伴う調査で見つかり、その後町独自の調査でより広範囲(13ha)に水田跡が広がっていたことがわかりました。

当時の水田は一区画が約 10m²(6 帖)程と狭く、水田を確保するのに水は畔を超して次の田んぼに入るようにすることで比較的簡単に作る事が出来たのではないかと考えられます。



写真 12

この町は、田んぼアートで有名であり年間 30 万人の観光客が訪れます。近くには弘南鉄道弘南線に田んぼアート駅(臨時駅)があります。村役場の 6 階展望室からアートを見る事が出来、7 月中旬から 8 月上旬には 2 時間の待ちができるほどの人気。

田んぼアートのきっかけは、東北地方で初めて弥生時代の水田跡を伴った遺跡(「柳垂遺跡」)が発見されたことに加え、この地方には「耕作晰」と言う農業指導書が江戸時代の終わりのころ(1776 年)に書かれ現存していることや、米の収量を計り始めた昭和 30 年から 63 年までの間に 12 回日本一になっていることが背景にあります。

2005 年から始まりましたが時の村長の声掛けから職員 5・6 名で始めた。年を重ねるごとに昨年より今年より良い作品をといふようになり、今では止めるにやめられない状況もある。1. 5ha の田んぼに 700 人ほどのボランティアが入り田植えをします。

始めた当時は稲の種類も少なく、耕作畝の記載されていた古代米「紫稻」、「黄稻」、「観稻」の3種類を使った稲文字だったが、平成25年(写真13)には5品種、平成24年には9品種と品種を増やし、平成27年は10品種7色の色を使っている。種子の提供は農業改良普及センターから頂いている。



H25第1アート 花魁とマリリン

写真13

近くにある遊稻の館では、稲作のワークショップを開催しており、田んぼアートの第2会場も近く

に出来ています。一坪地主制度も設け自分で田植えと刈り取りを行い、イベントでは施設内で調理して食べることもできる。平成26年に「第16回米・食味分析鑑定コンクール国際大会」を招致しています。「米・食味鑑定士協会」が毎年全国各地で開催しているもので、食味計により食味値を審査する一次審査、さらに味度計により米の保水膜を測定する二次審査を通過しノミネートされたお米を、最終的には鑑定士などによる官能審査によって良食味米を表彰するもので、青森県内では初めての開催でした。このように水田跡の発見から始まった稲作活性化に向けた取り組みは村を挙げておこなわれていた。

以上代表して報告します。

平成 28 年度 視察等の届出・報告書 (1~3)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
2	4/20~21	妹尾智之		東京都・(株)社会保険研究所(地方から考える「社会保障フォーラム」セミナー)

議長

副議長

局長

GL

係

回覧



様式第 1 号

平成 28 年 4 月 4 日

真庭市議会

議長 竹原茂三 殿



真庭市議会議員 妹尾智之



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

(株) 社会保険研究所

3 内 容

地方から考える「社会保障フォーラム」

4 行 程 別紙のとおり 4/20~21

5 事務局から訪問先への依頼 必要 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

公明党真庭市議団 研修日程表

期 日	行 程
4月 20日(水)	真庭市 →→→ 岡山空港発 (ANA654便) >>> 羽田空港着 = = (株)社会保険研究所(セミナー) 13:00~17:50 7:15 9:30 10:45 13:00 → 秋葉原ワシントンホテル(宿泊)
4月 21日(木)	秋葉原ワシントンホテル → (株)社会保険研究所(セミナー) 10:00~15:15 羽田空港発 (ANA657便) >>> 岡山空港着 →→→ 真庭市着 17:50 19:10 20:30

【 研修先 】

(株)社会保険研究所 東京都千代田区内神田2-4-6 電話:03-3253-057


【 宿 泊 】

秋葉原ワシントンホテル 東京都千代田区佐久間町1-8-3 TEL 03-3355-3311



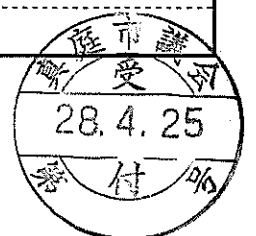
報 告 書

平成 28 年 4 月 25 日

報告者 真庭市議会議員 氏名 妹尾 智之 

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 平成 28 年 4 月 20 日 (午前・午後) 9 時 30 分 至 平成 28 年 4 月 21 日 (午前・午後) 17 時 55 分
2 場 所	(株) 社会保障研究所
3 用 件	第 9 回地方から考える「社会保障フォーラム」セミナー
4 概 要	第 9 回地方から考える「社会保障フォーラム」セミナー 4 月 20 日 (水) 講義内容 講義 1. 「若い世代から発信する日本の社会保障とは」 講師：石川 治江 (立教大学大学院 21 世紀デザイン研究科特任教授)



報告書（継紙）

講義 2. 「エビデンスに基づく子育て支援システムの構築」
講師：日下部 元雄（（株）オープン・シティー研究所 代表取締役 所長）
講師：日下部 笑美（（株）オープン・シティー研究所 共同代表）
講義 3. 「地域包括ケアシステムの構築と市町村の役割」
講師：辺見 聡（厚生労働省 老健局 振興課長）
4月21日（木）講義内容
講義 1. 「災害復興法学のすすめ～住民ニーズに応える災害救助法と 個人情報徹底活用～」
講師：岡本 正（銀座パートナーズ法律事務所 弁護士/中央大学大学院公共 政策研究科客員教授）
講義 2. 「子ども・子育ての現状と課題」
講師：香取 照幸（厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 局長）
取材の現場から
「①社会保険旬報 ②介護保険情報 ③年金時代」

平成 28 年度 視察等の届出・報告書 (1～3)

届出 番号	訪問日	氏名	参加者	訪問先・内容
3	6/17～18	河部辰夫	竹原茂三	愛知県知多郡阿久比町(ほたるサミットin 阿久比)



様式第1号

平成28年6月9日

真庭市議会
議長

竹原 三 殿

真庭市議会議員

河部 隆 夫 (御 返)

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

愛知学芸短期大学
阿久比町 阿久比町 勤労福祉センター

3 内 容

木更利サミット in 阿久比
6月17日(金)～6月18日(土)
自然と人間の共生

4 行 程

別紙のとおり 6/17～18

5 事務局から訪問先への依頼

必要

不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。



9. 開催日程

※中国道、名神道位後利用する。

✓ 6月17日 (金)		
12:00	受付	阿久比町役場
13:00	歓迎式	
13:15	ほたるサミット参加市町連絡協議会	
14:20	視察	阿久比町 (デンソー阿久比製作所・花かつみ園) 半田市 (半田赤レンガ建物)
18:00	歓迎レセプション	ヴィラ シェトワ ハクサン
19:45	ほたる観察会	ふれあいの森・白沢ホテルの里
21:35	宿泊	名鉄イン知多半田駅前 ホテル

✓ 6月18日 (土)		
8:30	受付	阿久比町勤労福祉センター
8:30	参加市町長打ち合わせ	
9:00	ほたるサミット オープニング 開会式 活動報告 ほたるフォーラム 共同宣言発表 引継式 講演会 武田邦彦氏 閉会あいさつ	
12:30	閉会	
13:30	昼食後解散	

参加者、竹原議長、河部局長、等 ✓



様式第2号

報告書

平成28年6月²⁹~~20~~日

真庭市議会議長

河部 茂三 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名

河部 辰夫 

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 平成28年6月17日 (午前・ <u>午後</u>) 時 分 至 平成28年6月18日 (<u>午前</u> ・午後) 12時30分
2	場 所	愛知県阿久比町大学校園丸山14番地 阿久比町勤労福祉センター
3	用 件	2016 厚生省サミットに阿久比の参加
4	概 要	別紙にて



2016 ほたるサミット in 阿久比 目的 テーマ

私たちの生活環境が変化していく中で、人間が及ぼした大気汚染、水質汚濁など様々な環境問題が発生する近年では、今一度自然環境の大切さを考えなおす必要に迫られています。古くから人間と共生してきたホタルは、環境の変化に敏感なため、自然環境のバロメーターとして貴重な役割を果たしています。ホタルの光は私たちに心の安らぎを与えてくれるだけでなく、その環境が安全であることまで教えてくれます。豊かな自然が残る環境に住みながらも、自然をみつめることが少なくなっている今日、自然に対する理解を深め、生きものたちの命をつないでいく取り組みとして生物多様性の保全に努めるため、ホタルの里づくりを推進する指導者が一堂に会し、ホタルの保護を通じて自然環境を悠久に守る道を模索し、そして活力ある故郷づくりを考える交流の場として「2016ホタルサミット in 阿久比」が開催された。

テーマは「自然と人間の共生・ホタルを守ろう」

参加自治体

和歌山県紀ノ川市 福岡県北九州市 山口県下関市 滋賀県米原市
愛知県阿久比市 岡山県真庭市

参加者 河部辰夫・竹原茂三